

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870900150
法人名	医療法人 康仁会
事業所名	グループホーム さわらび
所在地	愛媛県四国中央市三島金子2-2079-8
自己評価作成日	平成26年7月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成26年8月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療面では、母体病院の敷地内にグループホームがあるため、24時間体制でのサポートが可能で、定期的に担当看護師の健康チェック等を行い、体調不良時はすぐ連絡が取れる体制を整えている。その他、母体病院の外来リハビリにも週三回通っている。
生活、交流面では、同系列の老人保健施設・ケアハウス・通所リハビリとも連携を取り、イベント等にも参加している。
四国中央市で最初にできたグループホームであり、その歴史、経験を活かしたケアに努め、その人らしい生活を支援できるように、職員一丸となって努めている。
さわらびの職員は皆まじめで、明るく、向上心があり、入居者の事を一番に考えられる人間ばかりです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年地域の医療と福祉に貢献している母体病院の敷地内にある事業所は、四国中央市で最初に開設されたグループホームである。事業所では母体病院と24時間体制での連携が取れており、緊急時にも迅速に対応することもでき、利用者は安心して事業所を利用することができる。また、週3回リハビリを行い、利用者の身体機能の維持や向上を図っている。「楽しく笑顔で」という事業所の理念を掲げ、職員は利用者が毎日笑顔で過ごせるよう希望を尊重し、一人ひとりに合ったサービスを提供している。職員は来訪者に笑顔で気持ちの良いあいさつを行って出迎えることで、事業所全体の雰囲気を明るく活気のあるものにしていく。管理者は、さらに事業所の存在が地域に浸透し、利用者が地域の一員として生活できるように取り組むことを考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム さわらび

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

鎌倉 雅光

評価完了日

平成 26 年 7 月 13 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「楽しく笑顔で」を理念に職員全員がその意識を持ち利用者本位の立場に立った支援ができるよう努めている。	
			(外部評価) 法人理念のほかに、事業所独自の理念を職員と利用者が考えて作成している。開設当初の理念を誰が見ても分かりやすいよう変更しており、利用者が「楽しく笑顔で」過ごすことができるよう職員全員で理念を共有し実践している。また、毎月目標を作成し、達成に向け取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域周辺の散歩コースを作ったり、テラスを利用したりと、地域の方との交流ができるように努めている。	
			(外部評価) 地域の集会所に出かけ歌を聞いたり、お祭りの時に太鼓台を見学に行ったり、母体法人が運営するフィットネスクラブのイベントに参加するなど、地域等の行事に参加して地域住民との交流を広げている。同敷地内にあるケアハウスで行われる盆踊りには地域の婦人会やボランティアなどの参加協力があり、地域のにぎやかなイベントとなっている。また、事業所の玄関の近くには、座っておしゃべりを楽しめるテラスがあり、地域住民との交流の場になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 散歩時などに、地域の方にさわらびの入居者の方を知って頂くよう挨拶をしたり、認知症の方の理解を少しでもして頂けるよう接している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 会議での報告や意見交換だけになりがちであった。今後は、実際に利用者が行っていることにも参加、交流して頂き、より良い意見を頂けるよう努めたい。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は自治会長、民生委員、市担当者、他の事業所の職員等の参加を得て開催している。会議では事業所の取組みや利用者の状況を報告したり、職員が作成した事業所周辺の散歩コースをまとめた散歩マップを見て参加者から意見をもらったりしている。避難訓練と一緒に開催したりする工夫をしているが、管理者は会議の内容をさらに充実させ、運営に反映できるよう検討している。</p>	<p>会議は事業所の様子が分かりやすいよう映像や写真で報告したり、事業所の行事と一緒に開催したりするなど、有意義な会議となることを期待したい。また、多方面の参加者を呼びかけ、家族など多くの参加が得られる取組みを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には市役所の方にも参加して頂き、情報等を報告している。月1回ふれあい相談員の方に訪問して頂き利用者との交流、意見を聞いて頂いている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の様子を知らせているほか、気軽に連絡を取れる関係づくりをしている。地域包括支援センター主催の研修には、管理者は今後できるだけ参加したいと考えている。また、月1回ふれあい相談員の訪問があり、利用者の話をじっくりと傾聴してくれ、楽しい時間となっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関に関して、基本的には開錠している。ブザーなど付け工夫している。身体拘束に関して、職員での定期的な話し合いなど行っている。</p> <p>(外部評価) 事業所では身体拘束をしない方針で、職員は身体拘束の弊害などを話し合い理解を深めている。玄関にはセンサーを付け日中は開放しており、落ち着きのない利用者には、さりげなく見守りをしながら安心するような声かけをしている。言葉での拘束や利用者に威圧的な印象を与えていないかなどを職員は意識して、表情や声かけのトーンなどにも注意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に職員での話し合いや見直しを行っている。家族に関しては、事前調査時や、面会時、会話の様子などをしっかりとチェックするようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 定期的に勉強会を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 説明に関して不備なく行うように努め、また、家族や利用者の方の要望など言いやすい雰囲気を作るよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の近況等を手紙などで報告し、家族の方が面会に来られた場合には、要望を聞き、今後の目標にできるよう意見など取り込んでいる。	
			(外部評価) 面会時には職員から声をかけ、家族から意見や要望を聞いており、出された意見には迅速に対応するよう努めている。毎月、事業所での利用者の写真や手紙を送付しているほか、面会になかなか来られない家族には電話で近況を報告している。また、日々の生活の中で利用者の意見や要望を聞いて、細やかに対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 定期的に全職員参加しカンファレンスを行っている。報・連・相を徹底し情報や意見を共有できる環境づくりに努めている。</p> <p>(外部評価) 月1回職員会があり、利用者のサービスの話し合いをするほか、意見や要望を伝えることができる。日頃から管理者は職員と一緒に業務をしているため、職員は意見や要望を伝えやすい環境である。また、管理者は職員の様子を見て声をかけたり、個別に話を聞いたりするなど、職員全員が意欲を持ちながら生き活きと気持ち良く働けるよう取り組んでいる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 半年に1回職員個々で目標、反省の自己評価を行い、代表者が評価している。管理者も他職員の自己評価を把握している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修がある時には、連絡が来ている。機会があれば参加するようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 市内のグループホーム交流会に参加し、意見交換や情報の共有を行っている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用者本人が何でも言いやすい雰囲気を作り、要望や困っていることなど、気持ちの面でも全てを受け入れるという気持ちで望んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 親身になり、何でも言いやすいような雰囲気作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 話の内容だけでなく、本人、家族の方の表情なども、しっかりと確認しながら、少しのことも見逃さないように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者、職員とも、日頃の何気ないことでも、何でも話せる家庭的な雰囲気作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 定期的な報告にとどまらず、普段の何気ないことでも家族の方に報告するよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の方が連れて行くのが困難な場合には、職員が行くように努めている。 面会時には、また来て頂けるような声掛けを行っている。 (外部評価) 入居時に馴染みの場所や関係、生活歴を利用者や家族から聞いて把握している。利用者の希望に応じて、知人宅やお墓参り、行きつけの美容室などに出かけられるよう支援しており、利用者に喜ばれている。事業所に知人や友人が訪問することもあり、ゆっくり過ごしてもらうよう心がけている。利用者は全員女性で、利用者同士の馴染みの関係ができてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士で解決できる場合には職員は入らないようにしている。職員はフォローするところ、しないところを見極め支援するように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の施設等に移られる時は、ホームでの生活の記録などを作成し、今後の生活がスムーズに行えるようにしている。在宅に帰られる場合には、居宅につないだり、介護サービスの説明を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃の何気ない会話の中で利用者の要望などがあれば実現できるように職員で話合ったり、ケアプランに取り入れたりしている。 (外部評価) 入居時に希望の暮らし方や意向などを利用者や家族に聞いて確認している。日常会話の中で利用者の何気ない一言にも職員は意識して耳を傾け、新たに得た情報は記録している。利用者の好きな絵を書いたり、庭の手入れをしたりすることを継続できるよう支援している。思いを言い表しにくい利用者には、表情やしぐさからくみ取り、利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。	職員は利用者一人ひとりの思いや意向を丁寧に聞き取りをしているため、新入職員など誰がみても利用者の情報を把握しやすく職員間で共有できるよう、分かりやすく整理された記録様式などを検討することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) サマリーや、生活歴、また家族の方から昔の出来事を聞いたり、好きな物など実際に持参して頂いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) さりげない関わりの中でも本人の好みや意欲を探し出せるよう努めている。健康状態など全職員が把握できるように、しっかりと申し送りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者や家族の声にしっかりと耳を傾け、利用者の意向に添ったプラン作成に努めている。また、職員同士が同じ方向性を持って支援できるようカンファレンスを行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を反映して職員全員で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、現状にあった計画となっているか確認している。毎日、利用者一人ひとりのチェック表を記録し、介護計画にある目標や支援内容が確認できるようになっており、職員は意識して介護計画に沿った支援をしている。また、利用者の状態の変化があった場合は、その都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人の日々の記録以外にも、日常の会話の中での要望などを、職員全員が把握し、ケアプランにも取り入れるよう検討し努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) できないと決めつけず、できるにはどうすれば良いかを都度話し合いを行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域でのイベントがあれば、積極的に参加するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 母体病院の受診の他、利用者、家族が他の病院など希望された場合には、西岡病院の院長、看護師、家族の協力のもと素早く対応するように努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を受診することもできるが、利用者全員が母体病院をかかりつけ医としている。受診介助は職員がしている。母体病院以外の専門医は、家族の協力を得て受診することができる。週5回病院の看護師の健康チェックがあり、利用者の状態を確認しているほか、緊急時にも迅速に対応することができ、利用者は安心して事業所を利用することができる。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 母体病院の看護師と医療連携を行っている。日々、変わったことがないかをチェックし、報告や相談などを行っている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 母体病院に入院した場合、医師・看護師・介護士と連携し、情報交換し、他の病院の場合には家族・病院に定期的に連絡を取るよう努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した場合には、家族・病院の院長・看護師と相談し今後の方針を決める。 看取りに関しては現在行っていない。</p> <p>(外部評価) 重度化した場合に事業所として対応できる内容を、入居時に利用者や家族に説明している。利用者の状態の変化に応じて、その都度家族等と話し合い、希望を踏まえて母体病院や老人保健施設に転院してもらっている。事業所内での看取り支援は行っていないが、職員は法人主催の重度化への対応についての勉強会などに参加し、知識の向上に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルも作成し、定期的に見直しするように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の消防避難訓練を行い、全職員、地域の方、消防署の方も参加し、反省点や改善点を見直している。	
			(外部評価) 年2回夜間等の火災を想定した避難訓練を実施している。訓練では、実際に階段を使用して利用者の避難誘導をしている。職員全員が災害発生時の初期対応ができ、誘導経路を把握し安全に利用者を避難誘導できるよう防災意識を高めている。隣接している母体病院と合同で地震を想定した訓練も実施しており、相互の協力体制を築いている。運営推進会議と一緒に避難訓練を実施することもあり、参加者などの地域住民も参加して行われ、協力体制が得られるよう取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 家庭的で家族のような関係作りを大切にしつつ、あくまで職員、利用者の関係で一線は越えないように対応している。	
			(外部評価) 職員は利用者の立場を考慮して介護することを意識して対応している。特に排泄時や入浴時には、利用者の羞恥心にも配慮し、希望に応じてさりげなく同性介助を行ったり、大きな声を出さないよう気をつけ、プライバシーを損ねないように心がけている。利用者を敬称で呼んでいるが、利用者本人が希望しコミュニケーションが図りやすい場合には、利用者や家族の同意を得て親しみを込めた呼び方で声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃の何気ない生活・会話の中で、利用者の方の思いや、伝えたいことを見逃さないように努め、またその人の思いを尊重している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員が利用者の立場に立ち、利用者個々のその日の体調面や精神面を考え、レクリエーション、外出などの援助をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣類の購入時には、本人に決めてもらったり、家族の方をお願いしている。髪型も分け目や分け方も利用者に関心、気を配る様努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 昼、夕食は、病院食であるが、定期的に利用者の要望などアンケートを行い、より良い食事が提供出来るよう協力している。朝食やイベント時には、利用者も一緒に作るよう努めている。 (外部評価) 法人の栄養士がバランスの取れた、糖尿病などにも対応した献立を作成し、昼食と夕食は母体病院の厨房で調理されたものが運ばれてくる。毎月、利用者に対する希望をアンケートで聞いており、献立に反映している。誕生日やイベントの開催時には、お好み焼きやホットケーキなどを利用者と一緒に手作りをしており、利用者は楽しみにしている。朝食は事業所の職員が調理しており、利用者は調理の手伝いや食器洗いなどできることを手伝っている。また、事業所で買い物を行い、利用者の食事を調理する場合もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 母体病院の栄養士のもと、その人に合った食事を提供している。間食についても、利用者一人ひとりに応じた物を提供し、気を配っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、夜間の口腔ケアは声掛けし、できるところは本人でもしてもらい、できないところは介助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者の様子や時間帯などで声掛けし、トイレ誘導を行っている。利用者の性格等を考慮しながら支援するように努めている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄時間やパターン、その日の状態を把握して、トイレ誘導をしている。利用者に合わせて、ポータブルトイレを使用したり、リハビリパンツを使用したりするなど、オムツやパットに頼りすぎないように、できるだけトイレで気持ち良く排泄できるように支援している。また、トイレに誘導することにより、失禁などの失敗の減った利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事や水分補給などに気を配り、医師、看護師とも相談しながら、便秘改善に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本入浴は自由に希望に添えるようにしている。異性の場合には、同姓が行うなど配慮している。	
			(外部評価) 週3回を基本として、利用者は入浴することができる。管理者は毎日入浴や時間的な希望などに応じて、入浴支援ができるよう検討している。同性介助の希望にも対応すると共に、状態に合わせて職員2名体制で介助を行い、安心安全に入浴ができるように支援している。浴室から小さな坪庭を眺めながら、ゆっくり入浴できるよう工夫している。また、進んで入浴したいという利用者はいないため、声かけに工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 自由に居室、リビングを本人のペースで生活ができるよう、様子を観て声掛けなど行い、いつでも休んで頂けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の変更があった場合には、薬記載しすぐに確認できるようにしている。また経過観察をしっかり行い、内服時には必ず見守りや介助を行うよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居の際に本人の趣味、特技、以前の仕事など聞き、日々の生活を観察し、本人と相談しながら出来る範囲でその役割に励んでもらえるように取り組んでいる。利用者要望など聞き、都度買い物、外出行事を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 定期的に全員での外出や個人による外出援助も行っている。その日その日の体調面なども考慮しながら援助するよう努めている。 (外部評価) 事業所周辺の地域住民が集まる場所やバラ園、避難場所など安全な散歩コースを記した「散歩マップ」を作成し、リビングに貼って活用している。利用者の希望を聞いて、近隣のスーパーに買い物に行ったり、ファミリーレストランでコーヒーを飲んだりするなど、外出できるよう配慮している。母体病院の福祉車両を借り、車いすの利用者も全員で気兼ねなく花見やドライブに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小銭など自分で管理できる方は管理して頂いている。家族からの預かり金については預り証など作成し、職員が管理している。買い物時、会計できる方には自分で会計してもらおうよう努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の希望があったり、かかってきた場合にはホームの電話をいつでも使用できるようにしている。知人などに手紙を出したい方も、いつでも受け入れるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に応じた貼り絵をしたり、コタツを出したり、玄関先のテラスや庭の花などを利用し、少しでもゆったり生活できるように努めている。	
			(外部評価) 窓辺に面した明るい食堂では、利用者全員で机を囲んで談笑できるようになっている。キッチンスペースも近く、職員は食事の用意をしながら利用者の様子を見守ることができる。畳スペースもあり、利用者は好きな場所でくつろぐことができる。また、リビングには折り紙などの季節の飾りつけを行い、季節感を感じられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下に椅子を置いたり、2階ロビーにテレビを設置し自由に見たり、玄関先にテラスを設けるなどしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の馴染みのある物を持って来て頂き、設置したり、寝る方向に関しても気を配っている。また本人から何か要望があればすぐ対応するよう努めている。	
			(外部評価) 居室はベッドや洗面台、クローゼットを備え付けている。利用者は使い慣れた家具や雑貨、家族の写真やお位牌などを持ち込み、居心地良く過ごすことができる空間づくりをしている。天井や床は木目調のものを使用しており、温かみが感じられ落ち着きのある雰囲気となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自室がわかるよう名前やマークを付けたり、リモコンの操作に番号をつけたりと工夫している。夜間歩行不安定な方にはポータブルトイレを設置するなど安全面には十分に気を配っている。	